

ようこそ 図書館へ

第18号

2015年4月
津市図書館

おもな内容

P 1~3…うぐいす図書館が10周年を迎えました！

ポルタ久居ふれあい図書室がリニューアルオープンしました

P 4………レファレンス事例集

P 5………知ろう私たちの郷土

うぐいす図書館が10周年を迎えました！



津市図書館ホームページ

♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥

<http://www.library.city.tsu.mie.jp/>

♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥ ♥♥♥



白山町のうぐいす図書館は今年で10周年を迎えました。町民待望の図書館が開館したのは平成16年の11月5日。白山総合文化センターに併設され、吹き抜けの開放的な明るいスペースは訪れた方に大変喜ばれました。当時は施設の新しさからじゅうたん張りの床の前で靴を脱がれたり、本を借りるときに料金を聞かれたり、開館当初で図書館の利用も初めてだからこそそのエピソードもありました。

当時4万冊でスタートした蔵書冊数も現在では2倍の8万冊に増え、その間には津市との合併により津市内の図書館の資料を貸し借りできる体制が整い、さらに便利になりました。

これからも更なる資料の充実を図りながら、利用者の皆様の生活に生かしていただける身近な図書館を目指して頑張っていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○「うぐいす図書館文化祭」と「10年のあゆみ展示」



10周年の記念イベントとして10月にうぐいす図書館文化祭を開催しました。その中では「本から生まれた作品たち！」と題した特別展示を行いました。これは日ごろから図書館を利用している方々から本を参考に作られた作品をお借りして、実際に使われた本と一緒に展示するというもので、10月1日から29日まで募集したところ18名の方から32点の作品が集まりました。内容は洋服やかばん、リースのほか人形や竹細工などの応募がありました。本と一緒に作品を展示することで、どんな本を借りたらよいのか悩んでいる利用者の方にも本を選ぶ際の参考になり、役立てていただけたようです。



また、10年のあゆみ展示はうぐいす図書館の10年のあゆみを年表にしたものや写真を展示したり、イベントの中で使用した小道具や例えば今年の子ども読書の日のイベントで作成した「どこどこセブン」など実際の行事の中で作成した完成品も展示しました。

その他うぐいす図書館についてのクイズのコーナーもあり、「うぐいす図書館に非常口はいくつあるでしょう?」など知りたいそうで知らないクイズに再度館内を見回してみたり・・・と新たな発見もあったようです。

このようなイベントを通して改めて10年の歴史を振り返っていただきことで、図書館のことについて思い出したり、考えたり、さらに今後の10年を思い描くよい機会になったのではないかと思います。職員にとってもその当時から在職している者には懐かしく、後から入った者にも館の歴史を知ることのできた貴重な機会となりました。

また、これから10年・20年後につなげていけるよう利用者のみなさんとともに歩んでいきたいと思います。

○ポルタ久居ふれあい図書室がリニューアルオープンしました



ポルタ久居ふれあい図書室がリニューアルオープンしました。どうぞご利用ください。

開館時間 平日 10時～21時 土・日曜日、祝・休日 10時～18時

休館日 毎週火曜日、毎月最終木曜日、12月28日～翌年1月4日、特別整理期間

レファレンス事例集



Q 大伴家持が一志町のあたりのことを詠んだ歌が
万葉集の何番に載っているか知りたい。

A 「大伴家持」という本に、伊勢の国の河口（今の津市白山町）にいったときの短歌
「河口の 野辺にいおりて 夜の経れば 妹がた
もとし 思ほゆるかも」 とある。
万葉集の索引でしらべたところ、巻6第1029番
がその歌だった。

参考文献

「萬葉集 二」 新日本古典文学大系 岩波書店
「萬葉集 二」 新潮日本古典集成 新潮社
「大伴家持」 佐々木幸綱 さえら書房



Q 「伊勢は津で持つ 津は伊勢で持つ」とは何
の唄か。また、その意味は。

A ①「伊勢音頭」伊勢に参拝する人が、伊勢神宮への憧れをこめて歌った様々な唄が混ざり合
い出来たもの。②参拝客が伊勢の地方で歌われ
ていた木遣り歌や盆踊り歌を故郷に持ち帰り、
憧れの地「伊勢」の地名をつけて「伊勢音頭」
と呼んだ。③には俗謡として「伊勢は津で持つ
～」は「伊勢神宮は津という港によって参拝客
が絶えず、津は伊勢神宮への参拝客で栄える。」
と同じ意味である、など様々な記述がある。

参考文献

①「知ろう！おどろう！日本のおどり2」
鈴木出版
②「都道府県別 日本の伝統文化4」 国土社
③「故事・俗信 ことわざ大辞典」 小学館
「日本民謡大事典」 雄山閣

図書館員のおすすめの本

『キャパの十字架』 沢木 耕太郎 著 文藝春秋

戦争カメラマン：ロバート・キャパ。彼が撮影したとされる、有名な「崩れ落ちる兵士」と呼ばれる写真の謎を追うノンフィクションです。この写真はどこで、どのような状況で撮影されたのか。真実を知るのは、キャパとその恋人ゲルダだけ。著者の20年以上にも及ぶ地道な調査の結果たどり着いた答えとは？ 1枚の写真に翻弄されたキャパの人生を紐解くとともに、写真というメディアの持つ力強さと危うさに気づかされる、そんな作品でもあります。

『おかん』 平田 昌弘 文 平田 景 絵 大日本図書株式会社

お母さんと男の子の関西弁の会話でおはなしが進んでいきます。
おはなしの中の男の子は「おかん、おかん。」と呼びながら、お母さんの後をついてきます。
子どもって大した用もないのに、いろいろ話しかけてきますよね。そんな日常の微笑ましい様子が楽しめる絵本です。ぜひ親子で読んでいただきたい作品です。

図書館員のひ・と・り・ご・と

春のたより

図書館の窓の下に毎年数十本の水仙が咲きます。でも生垣にかくれているので、その水仙を見
ることができるのは図書館の中からだけ・・・。

窓越しに見える低く暗い雲。窓に手をあてると伝わってくる冬の寒さ。でも、窓の向こうに咲
く水仙の花はもうすぐ冬が終わることを伝えてくれます。

春はもうすぐ。図書館の中から見えるひと足早い春のたよりです。

知ろう私たちの郷土

いがご あだうち あらきまたえもん
「伊賀越えの敵討」と荒木又右衛門

川上裕子

昨年(平成26年)は、伊賀出身の俳聖松尾芭蕉の生誕370年記念として様々なイベントなどが行なわれました。芭蕉が生まれたのは正保元(1644)年ですが、それより10年前に伊賀の地で大きな出来事が起きました。その出来事とは、「伊賀越えの敵討」。鎌倉時代の曾我兄弟・元禄の赤穂義士の討ち入りとともに「日本三大敵討」と言われ、講談の荒木又右衛門の「三十六人斬り」で有名な事件です。その顛末から当時注目されていました。

様々な記録によると、始まりは寛永7(1630)年に備前国岡山藩士の河合又五郎が同藩士渡辺数馬の弟である源太夫(一説には小佐次)を手にかけて逃走したことでした。その又五郎を匿った旗本と受け渡しを求める岡山藩主池田家らの外様大名方との確執が生じ、そんな中で池田藩主の急死や国替えなどが起きます。一方、数馬は敵討ちを決意して姉婿で剣豪の荒木又右衛門に助太刀を得て、同11(1634)年11月7日に鍵屋の辻(現伊賀市小田町・現在は公園で県史跡の一つ)で弟の仇を討ちました。その後多くの講談や小説の元になった『武家殺法轉輪』上中下(「稻垣文庫」所収 請求番号L91-14~16 写真)という作品では、「頃ハ寛永十一年甲戌十一月七日荒木又右衛門渡辺数馬主従四人おどり出て戦いが始まり、数馬と又五郎は「あなたこなたへ立返り」戦ったと描いています。

この事件を題材とした淨瑠璃や講談の演目は人気を博し、中には敵討ちより又右衛門の活躍を中心とした作品も登場しました。そこまで人気のある荒木又右衛門とはどんな人物でしょうか。

荒木又右衛門は、柳生新陰流の使い手で凄腕の剣術家と伝えられています。実は、彼は伊賀の地に、そして藤堂藩と関わりのある人物でした。伊賀の荒木村(現伊賀市荒木)の出身で、父は一時期藤堂家に仕えていました(数馬の父も共に藤堂家に仕えていたと言われています)。その後、岡山藩主池田忠雄、

次に大和郡山の本多政勝に仕え、敵討ち当時は郡山で剣術の師範をしていました。彼については、藤堂藩剣術指南の戸波氏に弟子入りした話や、後に講談で作られた「三十六人斬り」の話(記録では数人)、数馬の闘いに手出しあしなかったことなどが伝え語られています。また『武家殺法轉輪』では、又右衛門は又五郎の従者を相手に「天狗のことくひらりと飛込」むような活躍をする一方で、騒ぎを知り駆けつけた奉行らに「敵討にて唯必御かまい有べからず」と声をかけ、城下を騒がしたことを詫びて「御用捨願ひ奉る」と許しを請うなど、役人と交渉する一面が描かれています。

義兄弟の敵討ちに武芸と交渉とで力を貸した彼の活躍や人柄が、人気になった理由の一つではないでしょうか。

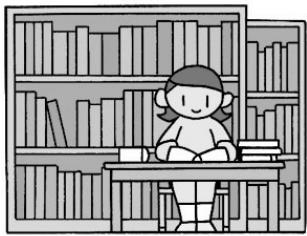


『武家殺法轉輪』上中下

主な参考文献

国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第一巻(吉川弘文館 昭和54年)、「角川日本地名大辞典」編纂委員会竹内理三編『角川日本地名大辞典24 三重県』(角川書店 昭和58年)、上野市編・刊『上野市史』(昭和36年)、日本古典文学大辞典編集委員会編『日本古典文学大辞典』第一巻(岩波書店 昭和58年)、志村有弘・諏訪春雄編『日本説話伝説大事典』(勉誠出版 平成12年)、浅野桐著『三重先賢傳』(東洋出版 昭和56年)、上野市古文献刊行會編『宗国史』上巻(上野市立図書館刊 昭和54年) 中野銀郎著『新編伊賀地誌』(歴史図書社 昭和49年) 他

休館日・開館時間などのご案内



※下記の休館日のほかに特別整理期間（年1回、14日以内）や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。



携帯電話QRコード

津市図書館ホームページ及び携帯版ホームページ
<http://www.library.city.tsu.mie.jp/>

| 館名 | 開館時間 | 休館日 |
|--|--|-------------------------------------|
| 津図書館 ☎229-3321 〒514-8611 西丸之内23-1 津リージョンプラザ内 | 平日 9:00~19:00 土・日曜日、祝・休日 9:00~17:00 | |
| 久居ふるさと文学館 ☎254-0011 〒514-1136 久居東鷹跡町2-3 | 平日 9:00~18:00 土・日曜日 9:00~17:00 | |
| ポルタひさいふれあい図書室 ☎254-0464 〒514-1118 久居新町3006 ポルタひさいふれあいセンター内 | 平日 10:00~21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00~18:00 | |
| 河芸図書館 ☎245-5300 〒510-0314 河芸町浜田782 | 10:00~18:00 | |
| 芸濃図書館 ☎265-6004 〒514-2211 芸濃町椋本6824 芸濃総合文化センター内 | 9:00~17:00 | |
| 安濃図書館 ☎268-5822 〒514-2326 安濃町東観音寺418 サンヒルズ安濃内 | 10:00~18:00 | 火曜日 毎月最終木曜日 年末年始（12月28日～1月4日） |
| 美里図書館 ☎279-8122 〒514-2113 美里町三郷51-3 美里文化センター内 | 9:00~17:00 | |
| きらめき図書館 ☎292-4191 〒514-0314 香良洲町2167 サンデルタ香良洲内 | 9:00~17:00 (7・8月の平日は 18:00まで) | |
| 一志図書館 ☎295-0116 〒515-2521 一志町井関1792 とことめの里一志内 | 10:00~18:00 (7・8月の平日は 19:00まで) | |
| うぐいす図書館 ☎262-5000 〒515-2602 白山町二本木1139-2 白山総合文化センター内 | 平日 10:00~18:00 土・日曜日 9:00~17:00 | |
| 美杉図書室 ☎272-8092 〒515-3421 美杉町八知5580-2 美杉総合文化センター内 | 9:00~17:00 | |

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ 第18号

発行日／平成27年4月1日 編集及び発行／津市教育委員会 津市津図書館
三重県津市西丸之内23番1号 津リージョンプラザ内 ☎ (059)229-3321